

令和4年度



# 研究デザイン



## 亀山市立亀山西小学校

〒519-0152 三重県亀山市本丸町 585

TEL 0595-82-0139

FAX 0595-82-8720

<http://www.kameyama-mie.ip/kbloa/nishi/>

■■■■■■■■ 教育大綱 基本方針 ■■■■■■■■

### 未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

■■■■ 亀山市教育関係職員 研修基本方針 ■■■■

～一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら  
なかまとともに主体的に学ぶために～

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

### はじめに

近年、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、技術革新等により社会構造は大きく、また急速に変化しており、さらには、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大など、私たちはこれまでになかったような数多くの課題に直面している。このような時代にあって、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、**他者と協働して課題を解決していくことで新たな価値につなげていく力**が求められている。

また、学習指導要領の改訂においては、探究的な学習の過程が一層重視され、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、**実社会・実生活において活用できるものとする**ことが基本的な考え方となった。「社会に開かれた教育課程」



の実現に向けて、探究的な学習では**4つのプロセス(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)の質的充実**が求められるようになった。総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、**よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成**することを目標としている。これらのことから、総合的な学習の時間は、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものとする。

令和3年1月の中央教育審議会の答申では、多様な課題が生じている今日において、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれらを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められるとしている。そこで**総合的な学習の時間における教科等横断的な学習や探究的な学習の充実を図ることが期待**されている。

加えて、昨年度から国の**GIGAスクール構想**のもと、当市においても学校におけるICT機器の環境が整備され、その活用と実践が求められている。ICTの活用や学校運営協議会の協力を得ながら、地域人材の新たな発掘や効果的な活用、授業のユニバーサルデザイン化を工夫したい。その上で、児童の学習の理解を深め、教科横断的な学習の領域である生活科や総合的な学習の時間・生活単元学習のさらなる充実を図りたい。



これまでの積み上げてきた本校ならではの生活科・総合的な学習の時間および生活単元学習の実践を、前述の教育的な背景を踏まえながら整理・統合・再構築を図り、以下の主題を設定し、研究の推進を加速させたい。

### 1. 学校教育目標

～確かな学力・豊かな心・健やかな体を育み、  
家庭・地域とともに歩む活気ある学校～

### 2 研究主題及び研究領域

主体的・協働的に学ぶ子どもの育成  
～魅力いっぱい!わたしたちの地域のひと・もの・ことを通して～  
【研究領域:生活科・総合的な学習の時間・生活単元学習】

### 3 研究主題設定の理由

○昨年度の成果から、魅力的な探究課題の設定が子どもたちの主体的・協働的な学びにつながると考え、今年度も、研究領域を総合的な学習・生活科に設定

し、探究課題の研究を深めていく。「社会に開かれた教育課程」を意識し、研究主題を「**主体的・協働的に学ぶ子どもの育成 ～魅力いっぱい!わたしたちの地域の人・もの・ことを通して～**」とし、研究の実践を行う。

○多文化共生やインクルーシブの考えを大切にした学校風土。商店や駅、文化的、公的な施設、歴史的財産が校区内にある、恵まれた環境。令和2年度より、本校はコミュニティ・スクールに指定され、子どもたちの学びをサポートしよう!という地域の思いが大きい。

○こうした本校の特色、強みを活かし、学校や学校をとりまく地域の人・もの・ことを題材とし、自分たちの身近な、魅力ある課題を探究する活動を行う。児童には、自分たちの力で地域をよりよくできるという実感をもたせ、主体的、協働的に学ぶ力を育てていきたい。計画的・継続的に取り組んでいくことは、亀山中学校区の研修主題である「**自他を認め、ともに学び合い、高め合う児童・生徒の育成**」の目指す姿の実現にもつながっていくと考える。



○21世紀を生き抜く確かな学力の育成には、ICT機器の活用は不可欠である。個に応じた学びを保証しつつ、協働して学びの質を高めていくために、学びの様々な場面でICT機器を活用する。昨年度までのコロナ禍における同時授業配信で培った、ICT機器の活用の成果と課題を検証し、今後は、年間計画や研究体制を再度検討し、個人の学習の歩みの情報収集や地域への学習成果の積極的な発信、児童間での発表のツールとしても活用を進めていきたいと考える。



### 4 研究主題について

#### (1) 主体的に学ぶとは

研究主題の「主体的に学ぶ」とは、「学習へ積極的に取り組むだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を**振り返ることを通して、次の学びに進んで取り組む態度**を育む学び」と定義する。子どもたちが主体的に学んでいくためには、**課題設定と振り返りが重要**になる。子どもたちが主体的に学ぶためには、**実生活や実社会の問題**を取り上げ、それを課題とする。加えて、学習活動



のゴールとそこに至るまでの道筋を鮮明に描くことができるような課題を設定する。また、子どもに学びを振り返らせることで、新たな課題を見つけるようにし、次の学習につなげさせる。

#### (2) 協働的に学ぶとは

「協働的に学ぶ」とは、学級の子どもや異学年、地域人材との学びを通して、**他者とともに課題を解決すること**と定義する。**協働して学ぶことは**、多様な情報に触れ、異なる見方や考え方に気づき、**自己の考えを広げ深めることにつながる**。また、地域の人との交流や友だちとの学習により、いろいろな考えを受け入れることができる素地を育てることができる。

